

ご存じですか？ ボランティア保険のポイント

～ボランティアのイベントやサロンでの事故を補償する「ボランティア行事用保険」について～
 保険の内容については横浜市ボランティアセンターのホームページをご覧ください。

※ゆうちょ銀行振込手数料改定に伴い、令和4年1月17日より、ボランティア行事用保険料振込に
 加入者負担で手数料が発生します。詳しくはゆうちょ銀行ホームページをご覧ください。

Q1：今度イベントを行うけれど、当日になるまで誰が来るか何人来るか分からない。どのプランに
 入れば良いですか？

A：不特定多数の人が参加するイベントはCプランになります。
 ※屋外のイベントは対象外になることがあります。

Q2：今度サロンを開きます。Aプランに入りたいのですが名簿の提出は必要ですか？

A：Aプランの場合は「参加者名簿」（氏名・住所・電話番号の記載されたもの）を備付けてくださ
 い。加入申し込み時に名簿の提出義務はありませんが、行事の開催時までには名簿の備付けをお願
 いします。

Q3：イベントが中止になった場合、保険料は返ってきますか？

A：はい、イベント前日までに返戻手続きを行えば保険料は返ってきます。
 行事の中止、延期、期間の延長・短縮、参加者の増加・減少などの変更があった場合は、原則と
 して行事開催予定日の前日までに社会福祉協議会にご連絡ください。
 雨天中止など当日にしか判明しない場合は、翌営業日（開催日が土・日の場合は翌日月曜日）ま
 でに手続きを行ってください。

*保険に加入するには社会福祉協議会への登録が必要です。

善意銀行寄付について

善意銀行は、みなさまの善意を預託(寄付)としてお預かりし、
 区内の当事者団体、社会福祉施設、地域福祉活動団体などに配分
 することにより、みなさまの善意を広げていく事業です。

善意銀行へ金品のご寄付をありがとうございました。
 区内の様々な団体や施設等へ配分を行う財源として、
 活用させていただきます。

◆寄付者一覧 ※敬称略/受付順

(令和3年1月4日～令和3年11月30日)

大船ルーテル教会教会学校	栄スポーツセンター	望月 恵智子
石橋 喜代子	パソポラ横浜	本田 桂子
上山 由美子	手工芸・SAKAE	匿名 11件

栄区福祉保健活動拠点 マスコットキャラクター
 「そらちゃん」



ありがとうございました。
 ボランティア活動、障害者当事者活動、生活
 困窮者への支援に役立てられます。

問合せ先：栄区社会福祉協議会
 栄区ボランティアセンター

受付時間：月～土曜日 午前9時～午後5時まで

TEL：045-894-8521

FAX：045-892-8974

そらの音声訳版をご用意しております。



JR：根岸線「本郷台駅」下車徒歩10分
 バス：神奈中・江の電「栄警察署前」下車徒歩3分
 神奈中・江の電「栄区役所前」下車徒歩3分
 神奈中・江ノ電「天神橋」下車徒歩3分



第117号

令和4年2月1日発行

発行 社会福祉法人横浜市栄区社会福祉協議会
 作成 栄区ボランティアセンター
 栄区桂町279-29 ピアハッピー栄
 (栄区福祉保健活動拠点内)
 ☎894-8521 Fax892-8974
 E-mail: office@sakaeku-shakyo.jp
 URL: http://www.sakaeku-shakyo.jp

栄区ボランティアセンターの今



【コロナ禍に寄せられた相談について】

令和2年、令和3年と新型コロナウイルス感染症の影響に
 より、ボランティア活動は大打撃を受けました。栄区ボラン
 ティアセンターへの依頼が令和元年度の181件から令和2年度
 は68件にまで減少しました。

その中でボランティアセンターにどんな依頼があったのか
 ご紹介します。

依頼の中で半数以上を占めるのが剪定や草取りでした。コロ
 ナ禍と言っても自然に草や木は伸びてしまうため、感染症の状
 況が良くなるのを待ってられないという声がありました。様
 々なボランティア活動が停滞する中、剪定や草取りのボラン
 ティア団体は予定いっぱいばいばいで活動されていたそうです。
 その他家具の移動など、コロナ禍でも生活支援のボランティア
 は活発に活動されていました。

依頼が多い剪定のボランティアは特にボランティアさんが足
 りていません。剪定やその他で得意なことがある方、空いてい
 る時間に何か活動したい方、ボランティアをやってみませんか。

【コロナ禍の新しい形でのボランティア活動】

現在では会議やボランティア活動など様々な場面でオンライ
 ンを活用した取り組みを多く聞くようになりました。栄区ボラン
 ティアセンターもオンラインを活用したボランティア依頼や活動支援をしてきました。最初はある高
 校生の相談から始まりました。当初は施設でボランティア活動をする予定でしたが、新型コロナウイ
 ルス感染症の感染が増えてきた時期でボランティアの受入れがストップしてしまいました。しかし本人
 から「自宅でするボランティアをしたい」という熱い思いをいただき、様々な施設に相談したところ、
 「利用者向けの体操用イラスト作成」と「LINEを使用した、利用者とのオンラインでの対話」という
 活動に繋がりました。栄区ボランティアセンターとしてはこの例を第1号としてコロナ禍で活動でき
 ないボランティア団体やボランティアの協力が得られなくなった施設に提案を行った結果、
 活動が広がりました。 *2面にインタビューを載せています。



さかえ・グリーン協力隊



いのやまプラチナ会生活応援チーム



ボランティア活動を行ったAさん(当時高校3年)へのインタビュー

--グループホーム内でできる体操のイラストを書いていただきましたが、それはどのようなボランティアだったのでしょか?

A:グループホームの利用者さんが目で見て分かるように体操のイラストを書いてほしいと依頼され、チャレンジしてみました。腰やひざに負担をかけない体操で何かあるのか調べて、それを絵にすることが大変でした。



--他にはどういったボランティアをしましたか?

A:認知症の方に対して、コロナ禍では何故外出してはいけないのか、手洗いやうがいなぜ大事なのかをわかりやすく説明するために紙芝居を作りました。

--紙芝居を手作りしたんですね。どういったところが大変でしたか?

A:認知症の方にどういう言葉で説明すれば分かり易くなるのか考えるのが大変でした。実際に紙芝居をテレビ電話を通して何回か利用者さんに読み、そのあとは雑談などをして交流しました。



--最後に、ボランティア活動を経験して良かったですか?

A:はい。おじいちゃんやおばあちゃんと交流して喜んでもらったことが嬉しかったです。高齢の方にどういう風にイラストを書いたら分かり易いのか試行錯誤しながら取り組んだことが良い経験になりました。

Aさんありがとうございました。

現在は大学の社会福祉学科に通っているとのこと。益々のご活躍を期待しています(^v^)/

☆☆ 傾聴ボランティアフォローアップ講座を開催しました ☆☆

令和3年10月27日に講師に湘南精神保健福祉士事務所 長見英知所長をお迎えし、栄区で活動されている「栄そよかぜ」「ミミバジル」「みんなの広場」の傾聴ボランティア3団体より23名の方が出席されました。

講義ではスライドと資料を使用し、ひきこもりや精神疾患、精神障害に関する講話と傾聴によるコミュニケーションについてなどのお話がありました。またグループワークとして対面ではないリモートや電話、アクリル板越しでの活動状況や活動についての相談、その他感じられたことなどが活発に話されていました。

提出して頂いたアンケートより「傾聴ボランティアに気負いはらない。受容と共感が大切である」とい、少し楽な気持ちになった。」「背中を押していただいた。」「精神障害の方に対する認識や偏見のある見方について気づきがあった。」「精神障害や認知症の方への具体的な接し方や対話の方法を知りたい」など今後につながる回答をたくさん頂戴しました。



参加された皆様や傾聴ボランティア団体の活動により寂しさや心救われる方が1人でも増えるようボランティアセンターも協力してまいります。



【寄付関係の紹介】

コロナによる収入減少で生活困窮や各地のマスク不足など様々な困りごとがニュース・メディアで取り上げられました。それらのニュースを見て「何かできることはないか」ということで多くの寄付をいただきました(令和2年度金銭15件)。

金銭に関してのご寄付については栄区の福祉推進のための「善意銀行」への寄付として福祉事業に充てさせていただいております。また直接困窮世帯へ支援したいとご希望の方に関しては、横浜市社会福祉協議会で行っている「ヨコ寄付」のご紹介をしました。「ヨコ寄付」については令和3年11月より、専用ホームページが立ち上がりました。



(URL: <https://yokokifu.jp/>)

また金銭以外にも「おうち時間」が増えたことにより、手作りマスクや手編みのニット帽など物品寄付したいというご相談が多く見られました(令和2年度23件)。

こちらの寄付に関しては栄区内の高齢・障害者施設や子育て支援団体、NPO法人を紹介させていただきました。

【最後に】

様々なアイデアや関心からコロナ禍でもボランティア活動の広がりを感じることができました。これからボランティアを始めたい方、ご興味ある方、ぜひボランティアセンターにご連絡ください。

VOICE OF 受賞者



令和3年11月26日に栄区福祉功労者表彰式が行われました。

受賞者の中で2名の方にインタビューを行いました。

ボランティア活動功労



おしゃべりシフォンカフェ
代表 中西 良子 氏

平成28年に発足したおしゃべりシフォンカフェは月に2回フローラ桂台自治会館にて、地域住民に向けてコーヒーと手作りケーキを提供するカフェを開いています。

みんなが集まれる楽しい場所を提供したいという熱意から中西さんが発起人となり、団体が作られました。現在は中西さんと2人のボランティアでシフォンケーキやクッキーを作って、来られた地域住民に提供しています。ボランティアさんは中西さんからスイーツの作り方を教わることができ、家族のために作ることもできるので喜んでいるそうです。利用者の中には91歳の方もいて毎回楽しみにされているそうです。

福祉団体自主活動功労



本郷Yランナース
中村 磨美 氏

本郷Yランナースは本郷特別支援学校の中学部以上の生徒とOBからなるマラソンサークルです。中村さんは伴走ボランティアとして10年以上活動しています。

中村さんは、歩いたり走ったりする楽しさを沢山の生徒と共有したいという気持ちから伴走ボランティアになりました。よこすかシーサイドマラソンや三浦国際市民マラソン等の大会参加に協力しています。速く走って記録を残すことよりも、一緒に楽しみたいを目標にしています。子どもたちに少しずつ意欲が見られるようになると、その家族も引っ張られて前向きになる姿にやりがいを感じるそうです。